

学力向上対策の報告

1 知「確かな学力」の定着を図る。

(1) 実践項目・実践事項

確かな学力の定着：①わかる授業・参加する授業・楽しい授業の展開 ②少人数指導の工夫・実践
 ③検定タイムの実施 ④諸見っ子タイムの実施 ⑤個別指導 ⑥家庭学習の推進
 ⑦東京書籍WEBライブラリの活用

読書内容の充実：①朝読書の奨励 ②図書館利活用 ③読み聞かせ ④必読図書の設定

情報教育の推進：①パソコン指導 ②パソコン活用授業の展開 ③情報モラル教育

伝え合う力の育成：①特別活動（話し合い活動）の研究・実践

(2) 取組の結果

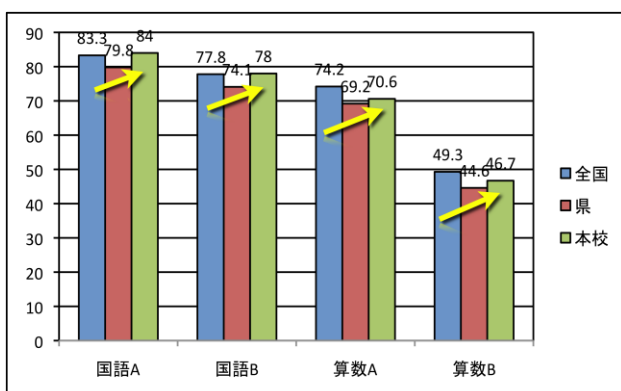


図1：全国学力・学習状況調査

4月に行われた「全国学力・学習状況調査」において、国語A、国語Bでは、県平均・全国平均点を上回った。算数A、算数Bにおいては、全国平均には若干及ばなかったが、県平均を上回ることが出来た(図1)。

このことは、前年度(5年生)に行った学年のたすきがうまくいったこと、B問題対策を行ったことがこれらの結果につながったと考える。

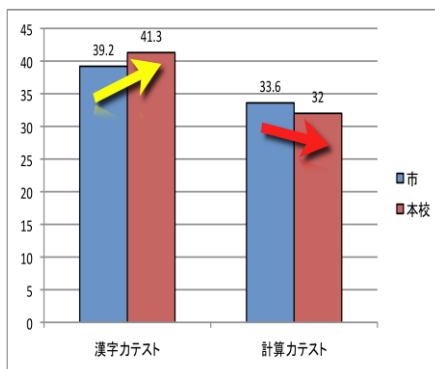


図2：漢字力・計算力テスト(6年)

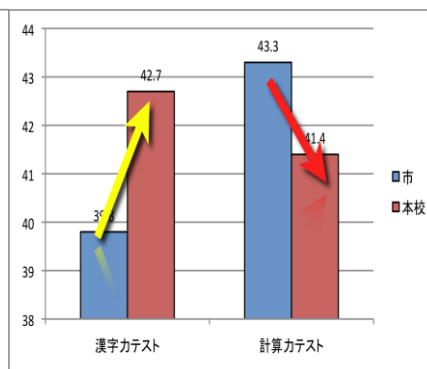


図3：漢字力・計算力テスト(5年)

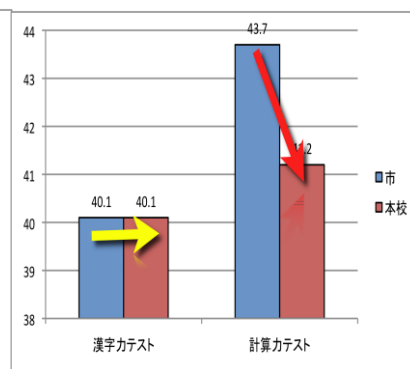


図4：漢字力・計算力テスト(4年)

8月に実施した「漢字力・計算力テスト」において、漢字力に関しては、市の平均と同等か上回ることが出来た。しかし、計算力については、どの学年も下回る結果となった(図2, 図3, 図4)。

算数科において、児童に計算力をつけさせる方法(授業改善, 家庭学習などの習熟等)を検討し、実施する必要があると考える。

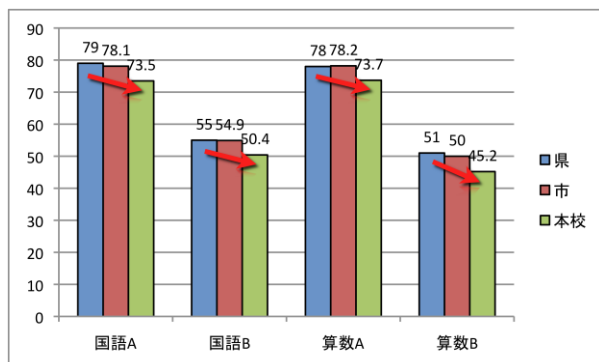


図5：県到達度調査結果(4年)

12月に行われた「県到達度調査(4年実施)」では、各調査とも、県平均・市平均に満たない結果となった。

国語では、文章の読み取りや文章作成に、算数では、図形・わり算に課題が見られた。また、問題を解決する考えや手順を文章で表現することも課題として出てきた。

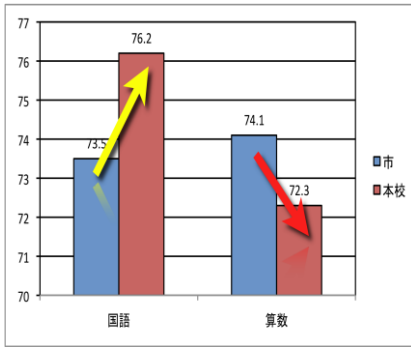


図6：市学力テスト（6年）

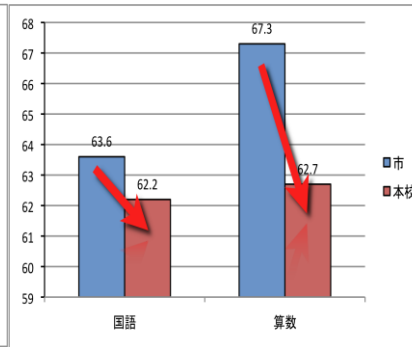


図7：市学力テスト（5年）

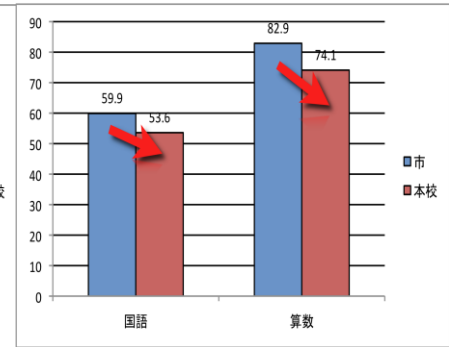


図8：市学力テスト（3年）

12月に行われた「市学力テスト」の結果では、6年生の国語では、市平均を上回ったが、それ以外は、下回る結果となった（図6，図7，図8）。県到達度調査とともに厳しい結果となり、各学年で課題領域・単元を確認し、その指導の計画を立て指導を行っている。特に5年生の算数は、5点も下回っているので、朝、放課後にも補習指導を行っている。

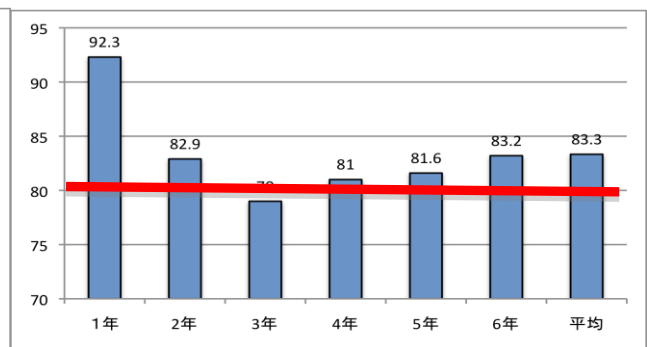
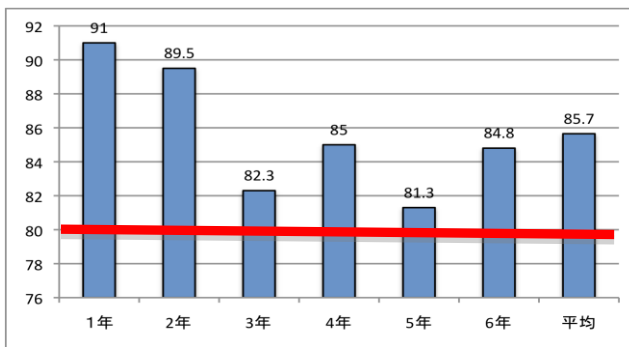


図9：市販テスト結果（左:国語，右:算数）

単元終了後に各学級で実施している市販テスト結果である（図9）。各学年も目標である80点をクリアしている。学習直後は、内容を理解していることがこの結果から分かる。これらの身につけた内容をどのようにして維持させていくかが課題となる。

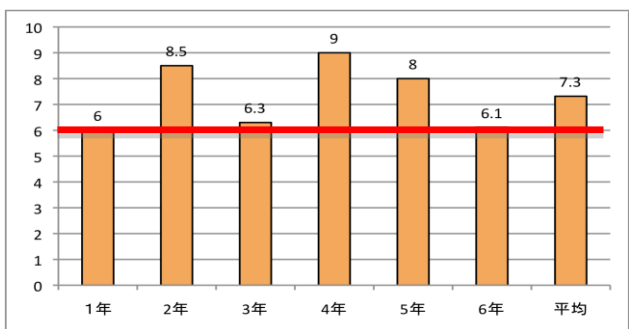


図10：がんばりノート冊数

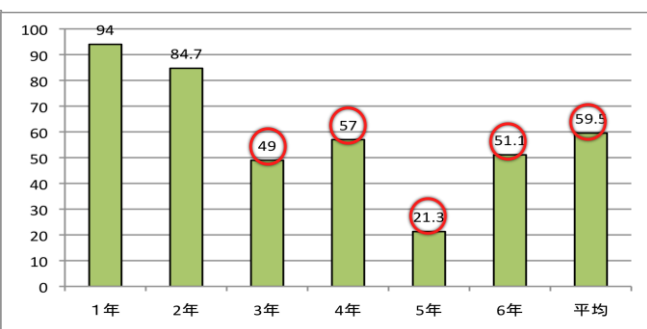


図11：家庭学習時間（目標達成立）

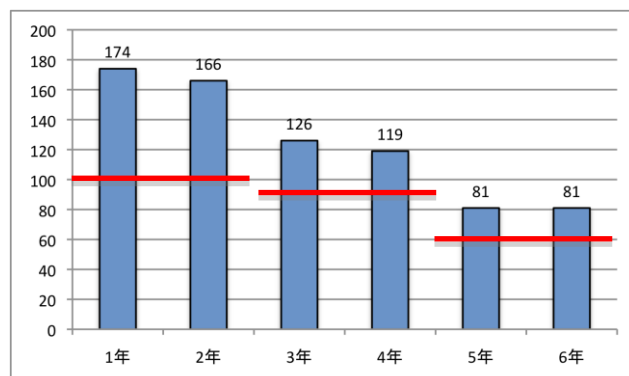


図12：図書貸出冊数（学年平均）

がんばりノートでは、目標冊数（6冊）を全学年達成している（図10）。しかし、家庭学習時間では、時間目標（低学年30分以上，中学年50分以上，高学年60分以上）を達成している児童の割合が3年以上で半数前後となっていることが分かる（図11）。このことは家庭学習でおこなう反復練習が不十分になることにつながると考える。

図書の貸出冊数では、各学年とも目標冊数を達成した（図12）。今後は、借りる本の内容が課題となる。

2 徳「豊かな人間性」の育成を図る。

(1)実践項目・実践事項

豊かな人間関係作り：①道徳の授業 ②行事体験 ③幼小連携 ④教育相談 ⑤キャリア教育
⑥あいさつ運動の実施 ⑦Q-Uの実施 ⑧構成的グループエンカウンターの実施

(2)取組の結果

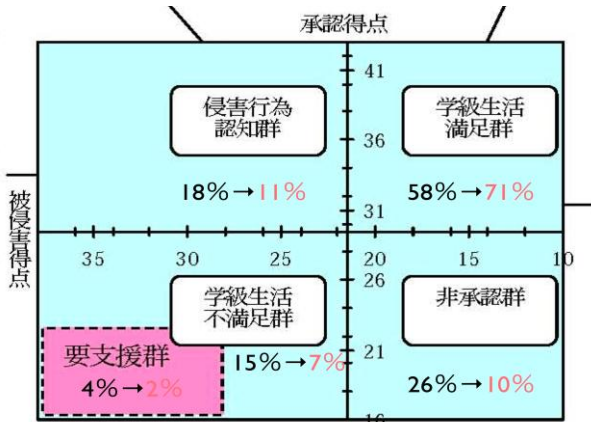


図 13：Q-U調査結果の推移

Q-Uとは、「学級集団の状態」「学級集団と児童個人の関係」「児童個人の個人内の評価」を把握するために行う調査である。3回の実施において、学級満足群（学級に満足している状態）では、58%→71%、非承認群（学級で認められていない）26%→10%、侵害行為認知群（認められているが意地悪されていることがある）18%→11%、学級不満足群（学級の中に居場所がない）15%→7%と徐々に良い方向への結果へ推移していることが分かる（図 13）。要支援群（早急な対応が必要）は、4%→2%である。これらの結果を踏まえて、普段の学校生活や教育相談において対応していった。

3 体「健康・体力」の育成を図る。

(1)実践項目・実践事項

偏食をなくす：①栄養指導（栄養士との連携）
泳力の向上：①水泳指導の工夫・実践
むし歯0（ゼロ）：①ぶくぶくうがい ②歯磨き指導

遅刻児童の減少：①生活リズムアンケートの実施
危険回避能力の育成：①けがバイバイカードの実施

(2)取組の結果

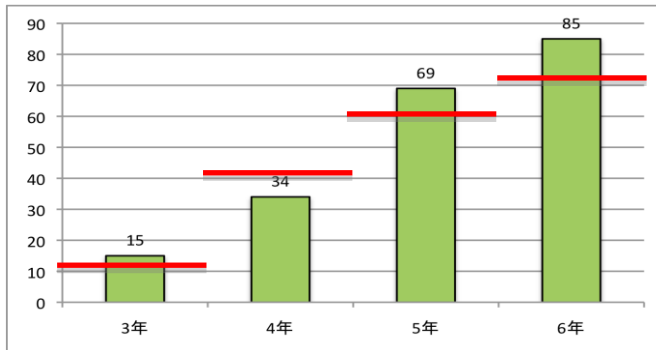


図 14：泳力（25m）の結果

泳力では、6年生が目標を達成した（図 14）。水泳指導が始まる3年生で、水に顔を付けることが出来ない児童、水を怖がる児童がおり、それが指導の妨げにつながっている実態がある。それらのことから、1、2年で行う「水遊び」から「水泳」へのつながりがスムーズになる指導の工夫が必要であると考えられる。

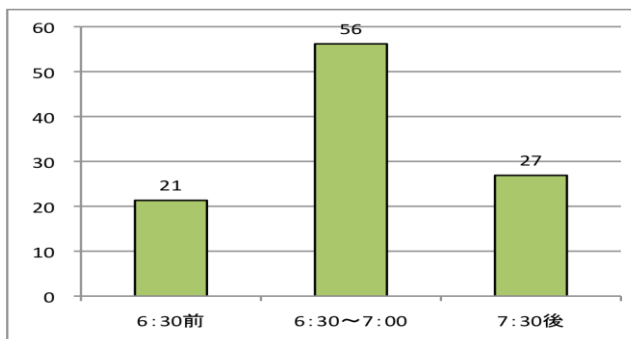


図 15：起床時刻

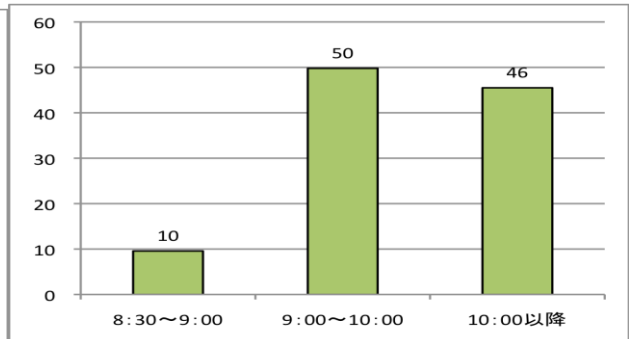


図 16：就寝時刻

10月に生活リズムアンケートを実施した。起床時刻では、7割の児童が午前7時までに起床していることが分かった（図 15）。しかし、3割が7時半以降の起床である。さらに、就寝時刻では、午後9時以降に寝ている児童が9割以上いることが分かった。さらに、10時以降も起きている児童が約半数いることも課題である。翌日の学校で授業を集中して取り組ませるためにも十分な睡眠時間の確保が必要であると考えられる。

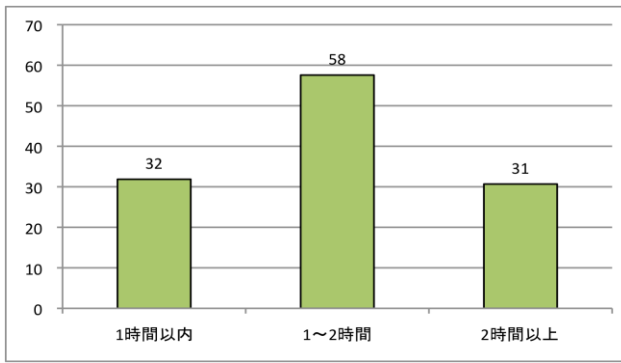


図 17：TV視聴・ゲーム時間

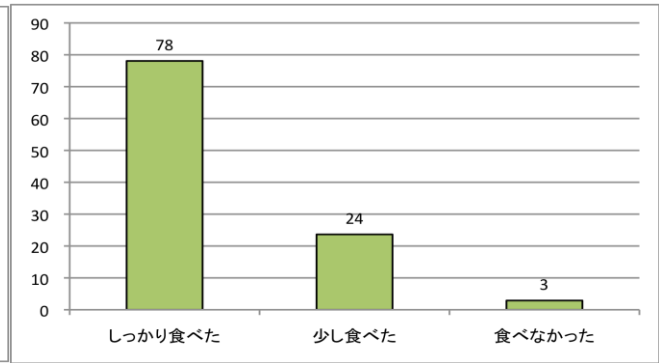


図 18：朝食摂取状況

TV視聴・ゲーム時間の結果では、1時間以上が8割以上いる結果となった（図17）。このことが就寝時刻の遅さにつながっていると考えられる。長所摂取状況では、8割弱の児童がしっかり食べていることが分かった（図18）。

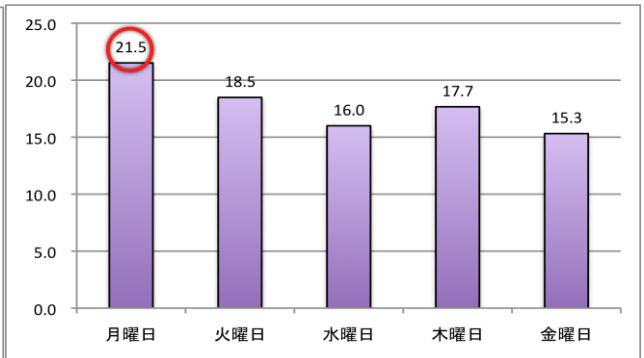
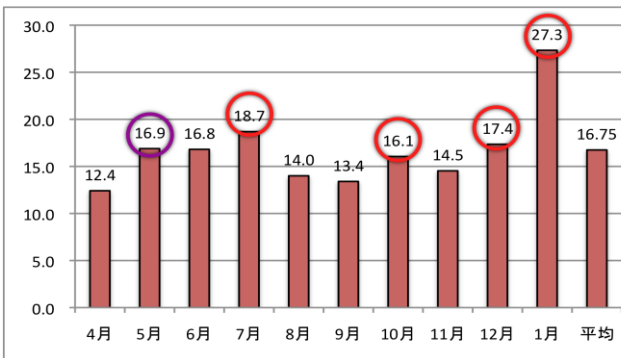


図 19：欠席状況（左：月別，右：曜日別）

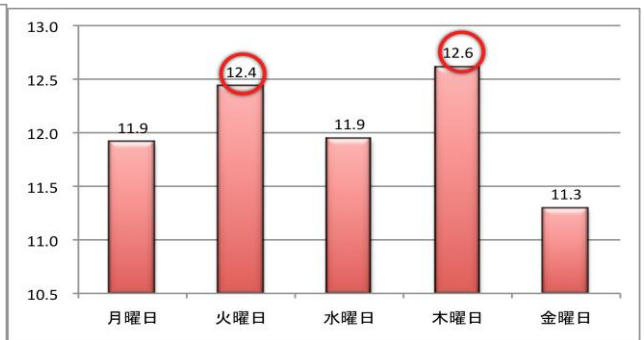
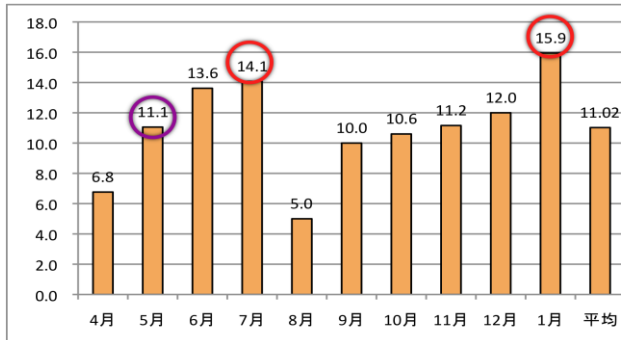


図 20：遅刻状況（左：月別，右：曜日別）

欠席状況（図19），遅刻状況（図20）では、月別で見ると7月、1月に増加する傾向があらわれている。曜日別では、欠席では、月曜日、遅刻では、火曜日・木曜日が多いことが分かる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・国語の漢字については、良い成績を残すことが出来た（漢字力テスト）。
- ・校長，担任以外の教諭等，全校体制での補習指導が確立した。
- ・各種アンケートの実施により児童の実態を細かく把握できた。
- ・Q-Uの実施結果から，児童への対応が早期・適切になり，さらに校内研究で進めている学級作りがより良い学級経営へとつながった。

(2) 課題

- ・習得した学習内容を維持していく取組の計画・実践（家庭学習，補修指導等）。
- ・B問題に対応した，授業の展開，活用問題の活用，諸見っ子タイムの運営の工夫。
- ・家庭と連携した生活リズムの確立，家庭学習の実践。
- ・泳力を向上させる指導の工夫・実践。